

|       |   |      |                 |
|-------|---|------|-----------------|
| 授業科目名 | 総合芸術文化実習  | 担当教員 | 尾西 教彰<br>近藤 のぞみ |
| 必修の区分 | 選択  |      |                 |
| 単位数   | 4単位   |      |                 |
| 授業の方法 | 実習  |      |                 |
| 開講年次  | 4年第2クォーター   |      |                 |
| 講義内容  | <p>この科目では、「劇場プロデュース実習2」に参加した学生のうち、本格的に劇場で働くことを希望する者に対して、将来の志望や適性等を考慮したうえで劇場とマッチングを行う。少数名（1劇場1～2名）が長期間（約4週間）にわたって実習を行うことで、劇場運営に関わる専門的、実践的な職業能力の修得を目的としている。</p> <p>芸術および地域マネジメントの観点から、劇場内外の業務をスタッフとともにに行い、新たなソフト事業、設備・機材といったハード活用の具体的な企画提案や運営、舞台技術や接客等の専門的な研修も経験することで、劇場運営に係る専門的な知識と技術を体得する。また、将来、多文化・多民族による共生社会の到来が予想される中、社会包摂など時代の要請に応えるビジョンを描き、地域の発展を促すような企画、その実施方法を考える実践的な力を養う。</p>   |      |                 |
| 到達目標  | <p>①劇場のミッションや公共性について、地域特性や社会変化を踏まえて説明できる。</p> <p>②公演制作業務だけでなく、普段行われている劇場管理業務（安全管理、保守点検、経理、委託契約など）についても説明できる。</p> <p>③課題や新たなニーズ等を発見する目的で、劇場内部だけでなく外部の関係者（プレイガイド、記者等）や地域住民とも、積極的にコミュニケーションすることができる。</p> <p>④劇場芸術によって地域の魅力が再発見され、新たな価値が創出されるような企画を提案できる。</p> <p>⑤劇場内外の状況を総合的に判断し、安全で最適な会場運営に向けて工夫・準備し、行動することができる。</p>  |      |                 |
| 授業計画  | <p>兵庫県立芸術文化センター（兵庫県西宮市）、兵庫県立尼崎青少年創造劇場（兵庫県尼崎市）、豊岡市立城崎国際アートセンター（兵庫県豊岡市）、こまばアゴラ劇場（東京都目黒区）のいずれかで、約4週間の臨地実務実習を行う。</p> <p>実習前の事前学習として、実習施設を調査し、実習計画書を作成、実習計画書を基に専任教員と学生が面談を行う。</p> <p>実習中は、実習指導者のもと、実際の劇場制作業務、舞台技術研修等に従事し、専門スタッフによる外部活動（顧客営業、マスコミ取材依頼など）にも触れることにより、劇場業務と地域との関りについてより実践的に学ぶ。</p> <p>中間時点及び最終日には、学生による報告会を実施するほか、最終日には劇場施設長等との意見交換会を実施する。</p> <p>事後学習として、学生は実習成果報告書を作成、報告会で発表を行い、劇場制作業務の実践への理解を深めるように、専任教員による助言・指導を行う。</p> <p>研修期間を通じて、劇場に関わる俳優、舞台技術者、プロデューサーなど</p> |      |                 |

|                |   |
|----------------|---|
|                | <p>にもインタビューを行うことで、劇場をめぐる舞台芸術の創造環境を俯瞰的にとらえるとともに、大学卒業後の具体的な進路イメージを得る。</p> <p>※実習先については、学生と専任教員との事前協議により、将来の志望や適性等を考慮したうえで、適切な施設を選択する。</p>                                 |
| 事前・事後<br>学習    | <p>参加する学生は必ず事前研修を受け、事後に実習成果の報告書を作成し、終了報告会において発表を行うこと。</p>   |
| テキスト           | <p>特になし。</p>  |
| 参考文献           | <p>適宜指示する。</p>  |
| 成績評価<br>の基準    | <p>実習の態度・日誌（70%）、実習報告レポート・プレゼン（30%）</p>   |
| 履修上の注意<br>履修要件 | <p>全日程に出席できることを参加条件とする。</p> <p>1日の実働時間は8時間（休憩1時間を含む）を基本とする。</p> <p>劇場現場の性格上、業務の必要に応じて変則時間となる場合がある。</p> <p>※具体的なスケジュールは、劇場担当スタッフと相談の上、後日確定する。</p>                        |
| 実践的教育          | <p>学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。</p>   |
| 備考欄            | <p>実習受入先の受け入れ人数を越える履修希望者があった場合は、説明会の後に提出を求める「志望理由書」を元に選考して履修者を決定する。</p> <p>尾西（n_onishi*stdat.at-hyogo.ac.jp）<br/>近藤（nozomi_kondo*stdat.at-hyogo.ac.jp）<br/>[*を@に変更]</p> |